つゝじヶ丘だより東京

つゝじヶ丘同窓会東京支部会報

発　行　函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部　会長　佐々木　太郎
〒136-0072 東京都江東区大島8-41-15-215　TEL&FAX　03-5609-9881
メールアドレス　<jimu@td-tokyo.com>
印刷所　株式会社 サンビプロダクトセンター　　題　字　細見　紀子(14回生)

ホームページURL；http//www.td-tokyo.com

第15回記念総会・懇親会開催される

平成25年5月18日(土)13時より、東京支部総会・懇親会が、当初危ぶまれた天候も快晴となり、前回と同じ目白「椿山荘」で開催されました。出席者は来賓14名を含めて230名、新緑あふれる庭園を見下ろす5階オリオンの間をほぼ一杯にする盛況でした。

総会は、18回生佐藤雅英さんの総合司会のもと、郷内繁副会長の開会宣言、成田慶子副会長による物故者への黙祷の後、若林英毅幹事長が手際よく議事を進めました。

事務局活動は、平成24年2月の学年幹事会で会則の改正を行い、名実ともに学年幹事会を同窓会の最高決議機関とした事、その後昨年中に事務局会議を6回開催、同期会補助の具体化、年2回の会報発行などを行った事や、第15回記念総会に向け4回事務局会議を開催、今年2月の学年幹事会で会長、副会長の交代人事、今年度の実行計画と記念総会の実施概要決定、昨年度の決算承認などが報告されました。

懇親会は、新谷義克会長の挨拶、藤井方雄つゝじヶ丘同窓会本部副会長の祝辞、函館西高等学校安房節雄校長の乾杯の音頭ではじまり、あちこちで旧交を温める姿が見られました。アトラクションと特別演奏（安房校長のサックス）が加わり盛り上がりました。

次期役員が紹介され、また、東京支部を支えてこられた新谷会長をはじめ功労者へ記念品贈呈がなされました。宴の最後には恒例の「港おどり」、校歌、応援歌斉唱、竹澤秀明次期幹事長の閉会挨拶でお開き、16時に盛会の中無事終了しました。

今までは特定の学年が持ち回りで実行幹事になり総会・懇親会を運営していましたが、若い世代で東京へ出て来る人が減少してきたため、前回からは事務局が運営、学年幹事がサポートするという体制に変えています。

第15回総会は、記念総会でした。そのため、会報を初めて32頁カラーの冊子とし、会員の多くの投稿により中身の濃いものとなりました。また、お土産として、五島軒の校章入りクッキーとカステラ、その他各支部の会報や各種パンフレットが配布され、二次会補助として7名以上出席の各回生に現金一万円が渡されました。

卒業生として、故郷函館と母校西高の発展、そして会員の皆さんのご健勝をお祈りし2年後全員元気な姿で第16回同窓会総会にて再会できることを願っております。（佐々木雅子記　32回生）

新会長挨拶

会長　佐々木　太郎

会員の皆様、5月の第15回記念総会の後、東京支部の会長を仰せつかりました。役員が全員13回生以下に大幅に若返り、事務局にはさらに若い人たちも入りました。

新体制になっても、高齢化と卒業生の減少による同窓生の絶対数減少と、同窓会活動をいかに調和させるかという課題は変わりません。

会の運営の方は、今のところ他校と比べても事務局がしっかりしておりますが、会員同士の結びつき、ふるさと函館情報のやりとりについては、まだまだやるべきことはあると思います。特に函館市との関係では、現在函館市の東京事務所は閉鎖されたままですし、函館物産館のようなものをつくろうという動きはありますが実現できていません。

先日、西高18回生で、亡くなった芥川賞候補作家佐藤泰志のドキュメンタリー映画「書くことの重さ」の試写会を見に行ったついでに、コンビニの「ローソン京橋駅前店」を覗いてきました。地下鉄銀座線の京橋駅の出口付近、銀座通りと鍛冶橋通りの角にある大型の店舗で、そこに函館の物産を常設で販売していると聞いたからです。

会員の皆様でもこの話を知っている人は少ないのではないでしょうか。銀座通りに面した店舗の壁面に函館の観光ポスターが数枚貼られており、入り口に近い陳列棚の一角に、するめ、がごめ昆布、貝柱などの乾物、五島軒はじめ何種類かのカレー、キャラメルなど函館の産物が置いてあるだけのもので、その気になって探さなければ見過ごしてしまうような慎ましさでした。問題は、規模や商品の内容以前に、函館に関係するこのようなものがあるということを知らせるチャンネルがないことです。

同窓会が、口コミでもこのようなふるさとに関する情報を媒介できるようになればよいと考えております。

あと2年余り（平成27年度末）で、北海道新幹線が北海道まで延伸し、新函館（仮称）駅まで開業します。函館と東京の間も約4時間で結ばれることになります。これを機会にもっと函館との絆を深めたいものだと思っております。

＊　＊　＊

☆特集

第15回総会二次会報告

高女37回生（鳥本玲子）

私たち高女有志9名（31回生から37回生）は、椿山荘3Fでお茶を楽しみました。港おどりは、私達の幼き頃、踊り舞台のはしごして歩いたなつかしさを呼び起こし、何時までもこのメロデーは心深く残るものでした。

女子高2回生（中村トク子）

お蔭様で80歳を過ぎたおばあさん軍団が10人集まりまして楽しいひと時を過ごしました。

次の同窓会もぜひ逢いましょうねと約束して別れました。つつじヶ丘だよりが、よく出来ていると感心しておりました。

3回生（山村　勉）

椿山荘1Fティルームにて出席同期全員にて同期会を開きました。今後の活動予定・同期会開催の計画、函館同期会出席の事など有意義に会合を持ちました。

5回生（長澤慎二）

椿山荘の中で二次会は、当日宿泊の八木さんが予約してくれたおかげで、10名分の席が確保され、ただちにおしゃべりの続きを開始。

お隣の席は結婚式のながれの若いグループ、こちらは喜寿を迎えたばかりの気の若いグループ。東京五西会、函館五西会の開催日などの情報も交換し、散会後庭園散策をしました。

9回生（徳田紀美子）

同窓会の良い所は横だけではなく縦（先輩・後輩）そして斜め（近所）の繋がりが有る事でしょう。あちこちのテーブルを回っている間にあっという間に時間が過ぎ、ハイテンションのまま二次会へ。

目白でケーキセットやアイスクリームで二度目の乾杯です。二年後又逢えるように元気でいましょうねと言ってお開きにしました。

10回生（福井達郎）

同期会をいつも利用しているニュートーキョー有楽町本店の「さがみ」で開催した。

村田さんは初参加、新しい参加者が増えるのは嬉しい限り、総会に遠路長岡市から高見君が参加したこともあって、同組の中居君、豊岡君、住谷さんが同期会に参加した。

二次会にも関らず、よく食べ、飲み、会話に終始した。二次会参加の三人に次回の出席を要請した。

12回生（最上龍一）

16時半からJR池袋駅西口近くの居酒屋「岩窟王」で二次会を開催しました。それぞれの近況を含め四方山話で2時間程花を咲かせ楽しい時間を過ごしました。この席上で東京地区12回生の古希祝いを兼ねた同期会を秋に開催することで賛同を得、12回生学年幹事最上と副幹事村井が中心となり、同期会を企画立案することとなりました。

13回生（三村寿雄）

今回の同期会は17名と二次会のみ2名での開催でした。14回生も同じ場所での開催で、そちらには、23回生、31回生も参加し全体で46名の大宴会、回生を超えて楽しい時間を過ごしました。函館からも1名、三次会は14回生と合同でカラオケを楽しみました。

14回生（若林郁雄）

総会・懇親会で新会長・新副会長を送り出した14回生は、会場での万歳三唱の勢いで二次会会場の銀座に流れ、13回生のお隣で23回生や31回生とも合流、改めて旧交を温め合いました。

札幌、函館、郡山、京都、新潟、静岡など遠方からの出席も多く、歴代の学年幹事も皆集合し15回記念総会らしい会合となりました。

来年の「第3回同期会旅行」の検討が確認され、盛り上がりの中終了しました。一部の方は、3次会、4次会へと流れたようです。

二年後の総会では古希を過ぎています。皆が元気で居られる様頑張ります。

17回生（竹澤秀明）

二次会には、「椿山荘」近くの居酒屋ということも有り、親爺さんの好意で、休業日でしたが開けて貰い、ほぼ全員が参加しました。いつもより長めの懇親会だったので十分話し、飲んだと思っていましたが、さにあらず、おかみさんも驚くほど飲み、大いに盛り上がりました。幹事として目算が狂い慌てたほどです。

函館から3名の女性と札幌支部事務局長も飛び入り参加しました。

退職組も目立ち始め、ボケ防止の為同期会を続けたいと思います。

18回生（中川隆）

我ら18回生は函館からの出席者5名を含め、22名が参加をしましたが、ほとんどのメンバーが南池袋の二次会の場所へと足を運びました。

二次会では、会話の輪がいくつもできるくらい話に花が咲いて、完全に時を忘れてしまいました。

中には卒業後初めて会う人もいたりして懐かしくも楽しいひと時でした。全員の連絡

先を紙に残すことにして、当日の写真の送付や今後の様々な連絡が容易に図ることとしました。

20回生（松田陽一）

支部総会出席8名中7名（一人は孫に会いに直行）で、今年度第1回同期会を行ないました。殆どが前回総会あるいは一昨年の函館での還暦同期会以来2年ぶりの再会でした。場所をカラオケ店に移し、昔話しや老後の事などを情報交換して、3時間あまり有益な時間を過ごし、次回の再会を約束してお開きとなりました。

24回生（小林多美）

池袋のカラオケでは、歌って、笑って盛り上がり親交を深める事が出来ました。

また、お土産である五島軒の話題に触れ、高校時代の放課後に寄り道した店（クリフサイド・山小屋・想苑・まめさん・青龍・等々）など昔話に花を咲かせました。

皆さんの声・準備方の皆さんお疲れ様でした。

32回生（佐々木雅子）

総会・懇親会では32回生のほとんどの人が初参加。

昨年、卒業して30年目の同期会を開き、初顔合わせのようなあの感覚。あれから8か月後不思議な懐かしさで久しぶりに会い、仲間が増えた嬉しさでいっぱいでした。

皆で飛び込んだ居酒屋は、高田馬場の沖縄料理「やんばる」です。早めに入れてもらい、古酒も楽しみながら味わう同期生。西高時代を思い出し、友人達の名前を次々とあげ、とても楽しい一時でした。

＊　＊　＊

《投稿》1

古刀再現の先陣を行く

同期生　高橋順吉（17回生）

平成18年松田刀匠の鍛刃場火入れ式に参加して以来、毎月開催される刀の勉強会に出席してきました。勉強会には洋鉄の権威（元川鉄社長で現JFEスチール顧問）の大橋延夫氏や、元川鉄常務の野崎努氏（西高9回生で刀匠と私の先輩）等々その道の求道者の方々が多数参加されています。純度の高い洋鉄でなぜ日本刀（古刀）が再現出来ないのかとの質問に対し、刀匠は日本刀は和鉄で造る決まりなのでと説明しますが、鉄に対するお互いの知識の深さへの尊敬の念がビシビシと感じられ、深い感銘を受けました。

「現代刀匠には古刀再現は無理」との常識の中で、松田刀匠は頑なに古刀（古備前・鎌倉前期）の再現にのめり込んできました。これは、彼が古刀の美しさに惹かれ、鉄の成分分析等を積極的に行い古刀再現を目指したものです。9月に松田刀匠の後援会が出来ました。後援会会長には敷土文夫氏（元JFE社長 現相談役）が就任しました、彼の人脈と人柄を窺わせる証拠と思われます。

一方、銀座の刀剣専門店「泰文堂」社長の川島貴敏氏は、今回、松田刀匠へ二桁の本数の刀を発注しました、通常現代刀を美術品として扱わない刀剣専門店で松田刀匠の個展を平成26年7月に開催する予定とのことです。これは、彼の刀の古刀に比するだけの価値を、古刀の専門家が認めてくれた事になります。

この二つの現象（後援会・個展開催）は全く偶然に並行して動き始めました。松田刀匠による古刀再現の先陣を行く環境は整いつつあります、今後は体調に留意し益々活躍することを祈念しております。

以下に刀匠の特別寄稿をご紹介致します。

『武士道と日本刀』

松田次泰（17回生）

鉄器が弥生時代に武器として使用されだし、刀には二千年の歴史があります。平安時代中期に刀に反りが付き日本刀となりました。それ以前は直刀で聖徳太子の絵に見られるものです。なぜ反りがついたかハッキリしたことは解りません。

平安時代後期から室町時代後期の日本刀を「古刀」と言います。これから江戸時代中期を「新刀」、幕末までの日本刀を「新々刀」と言います。明治から現代までの日本刀を現代刀と言います。

日本刀の良いものは鎌倉時代に集中しています。刀鍛冶は鎌倉時代の日本刀を再現することを目標としていましたが、古刀を再現したと評価された刀鍛冶は未だ居ません。

日本刀の三つの大切な要素として「機能性」、「美術性」、「精神性」があります。前の二つは技術的なものですので理解できますが、「精神性」は実に厄介に思われました、武士道などもこの範疇に入ると思います。

さらに面倒なのが、刀は三種の神器に入っているという事です。要するに刀が「神」になっているわけです、刀鍛冶として自分が作った刀からこれを感じることは、私には理解するのが大変でした。名刀とは「美しい」日本刀です、これは日本刀が出来た時からそうです。

本居宣長の歌に「敷島の大和心を人問わば朝日に匂う山桜花」があります。日本刀を見たとき刃文が見えます、これを匂口(においぐち)と言います。この匂口の匂と、朝日に匂うの匂いは同じ意味です。山桜が朝日に反射してひかり輝くという意味です、ですから刀の刃文は光に透かすと光輝かねばなりません、古名刀はこの輝きを持っています。日本では生命力の強いものを「神」としました。自然にある山や巨岩、巨木その他、生命力の強いもの、動物では蛇などを「神」として崇めました。

人工的に生命力の強いものとして三種の神器（八咫鏡（やたのかがみ）、八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）、天叢雲剣（あまのむらくものつるぎ））があります。刀は生命力の強いものでなければなりません。ですから、日本刀になった初期の平安末、鎌倉初期の作刀技術が必要です。鎌倉の技術の再現に和鉄（玉鋼（たまはがね））の性質を理解することが必要です。この和鉄は非常に扱い難い性質を持っていますが、この性質を利用すると鎌倉時代の作品に非常に似たものが出来てきます。現代の鋼「ヤスキ鋼」がこれにあたります。

武士道憲章に「第一、武士道は天地自然の理法と共に生きる」とあります。和鉄もこの自然の理法に従って鍛錬し、熱処理すると質の高い鎌倉時代の作品が出来ると考えられますが、これを現代の自分の生活の中で理解することは非常に難しいと思います。日本古来のものの考え方である「神道」とか、東洋哲学である「儒教」などが必要となり、武士道精神を形に表したものとしての日本刀の存在が非常に重要であると、刀鍛冶になって三十年以上過ぎた現在ヒシと感じるようになりました。

＊　＊　＊

《投稿》2

『終わらざる夏』（浅田次郎）を読んで

佐々木太郎（14回生）

浅田さんの「函館弁」の描写も、いいですョ。「函館高女」の先輩は、”泣いて喜ぶ”と思いますけど。どうして、この小説のことが「同窓会」で話題にならないのか？不思議です

発端はこの夏、小嶋顧問（10回生）が堀内副会長（14回生）に、メールで最近文庫本になった浅田次郎の小説「終わらざる夏」を勧めたことである。

小説のあらすじは、岩手県出身の3名の男が終戦間際の昭和20年8月に招集されて千島列島の北端、カムチャッカ半島の隣にある占守島（シムシュトウ）へ送られそこで終戦を迎えるが、8月17日ソ連軍はそこにいた日本軍の精鋭の戦車部隊に攻撃をしかける。日本軍は応戦しソ連軍を撃退するが、その後の講和で生き残り全員シベリアに送られた。ただ、そのとき函館高女を3月に卒業したばかりの400名の乙女が、女子挺身隊員として守占島にある日魯漁業の工場で鮭缶の製造に駆り出されていたが、全員無事根室に帰還した、というものである。

昭和20年3月卒というと、高女37回生である。今年の同窓会総会にもその回生は何人か出席しているので、どれだけ史実に基づいているのか、彼女たちを取材してみるとわかると思っていたら、堀内さんが片端から電話しまくり、事実を確認しようとしたが、誰も占守島へ駆り出された話は知らなかったという。昨年実施した高女の座談会（つゝじヶ丘だより第9号に掲載）でも、女子挺身隊で七飯に援農に行った話や帝国製菓の工場へ派遣された話は出たが、千島の、それも根室から千キロ以上も離れた占守島へ駆り出された話はなかった。

著者の浅田次郎は、平成9年「鉄道員（ぽっぽや）」で直木賞を受賞した作家である。ストーリーテリングの鮮やかさには定評がある。本人もこの話はフィクションであると言っているが、高女37回生の卒業生は272名であり、400人もの卒業生が北千島に行く筈はなく、函館高女は実在する学校名を借りてきただけらしい。

冒頭の「函館弁」に関しては、先日の同窓会事務局会議で話題になったとき、浅田次郎は競馬好きで、よく函館競馬場に来ていたという話もあるので、夜の街で覚えたのかもしれない、ということになった。はて、真相は？？

◇　◇　◇

回生だより

（9回生）春の一泊旅行

恒例の一泊旅行は「ウェルネスの森　伊東」へ集合しました。大阪、札幌、函館等からの6名を加え28名の参加です。

早めに到着し、海を眺め、お風呂に入って一段落、幹事部屋に集まって早速宴会の始まりです。昨年食べた生干しイカが好評で今年は同窓会からの補助金で函館から取り寄せる程の熱の入れ様です。各種飲み物とおつまみで盛り上がり本番の宴会では春の旬の鍋料理からアイスクリームまで堪能しました。その後3次会での飲みとおしゃべりは24時まで続き、さすが70代には限界でした。翌日は湘南の江ノ電に乗って鶴岡八幡宮へ、「峰元」での昼食後牡丹観賞し、

小町通りを散策しおみやげを買って解散しました。（徳田紀美子）

（27回生）屋形船でクルーズ

7月6日(土)に千羽丸という屋形船にて、約2時間のクルーズです。もんじゃ焼、お好み焼等に、ビール・サワー飲み放題。当日はかなり暑くなりましたが、海風が気持ち良かったです。

千羽丸は2回目ですが、初めての方、また同期会への参加が久しぶりの方もおり、参加は6名と最少タイ記録でしたが、だいぶ盛り上がりました。二次会は新橋のカラオケに流れ、青春の歌で、若かりし頃を懐かしみました。次回は11月～1月にて開催する定です。（野口卓史）

（32回生）担任の先生も出席

9月7日第2回同期会は、4時間の会食となりました。昨年同様2組担任の吉田先生が教え子達の事をよく覚えておられ、改めて素晴らしい先生に出会えた事に感謝しています。

出席者は合計8名でしたが、今年は5組と7組の男性が増え、新鮮な盛り上がりを見ることができました。

皆、年齢的にはもうすぐ50歳です。仕事も順調の様子、頼もしいかぎりです。また、宴半ばで、札幌の同期生ご夫婦に電話をかけて頂き、当時のアイドル的女子高生ともお話ができ、次回は女性陣の参加も促し、函館で同期会を開きましょうと夢を膨らませました。（佐々木雅子）

（12回生）古希祝も兼ねて開催

9月22日ニュートーキョー数寄屋橋店で東京地区12回生同期会を古稀祝いも兼ね開催致しました。函館から若林裕さん、札幌から板垣穎市さんが参加。東京地区からは34名、総勢36名が集う会久しぶりの同期会でした。

秋山重子さんの威勢の良いオープニング乾杯で大いに盛り上がりクラス毎に参加者の近況報告そして懇親会へと移りました。大病後の友や体調不良をおして参加してくれた友も相当数おりました。テーブル間を移動し青春の面影を追いながら楽しく愉快な老春のひと時をすごしました。

そして港踊り、校歌斉唱の後集合写真を撮り、最後は徳田和平さんの一本締めで閉会。その後は2次会へとなだれ込み同期会の余韻を楽しんで散会となりました。70代は男盛、女盛でこれからです。（最上龍一）

（14回生）同期会in函館開催

同窓会(本部)総会が10月4日に開催されるのに合わせて、その前日に湯の川温泉のイマジンホテルで開催されました。出席者は東京から5名、札幌から3名、名古屋、仙台、青森からも参加者があり合計42名、久しぶりの再会に話が弾みました。

ただ、会の冒頭物故者への黙祷を行いましたが、4年前には同期の物故者が28名だったのが、今回は把握できただけで37名になり、着実に老化が進んでいることを感じさせました。

二次会もサロンで全員参加、カラオケで結構盛り上がっていました。来年の東京支部同期会旅行は北海道を計画していますので今回の出席者にはお世話になることと思います。次は古希に集まろうということになりました。22時でお開き、三次会へ繰り出した人もいたようでした。（堀内洋子）

（21回生）還暦同期会、函館で開催

10月12日、ホテル法華クラブホテル函館で、還暦同期会に参加しました。(半数以上がもう61才だが・・・) 当日東京の最高気温が30度の真夏日、函館の夜は小雨模様8度の予報、何を着て行くか迷う温度差でした。

参加者は、道外19名(東京13名)道内53名合計72名でした。卒業後初めて会う人もいて、受付で貰ったネームプレートと名簿を頼りに、高校時代の面影を探してお互いを確認するシーンが、宴会前から続いていました。

菅原秀夫君の司会で始まり、代表幹事石川則夫君の挨拶、続いて赤いチャンチャコならぬ赤いマグカップで、はるばる福岡から参加の獅子原祐美子(旧姓中村)さんの乾杯で宴が始まりました。席に留まる人は少なく、懐かしい

西高時代の文化祭での仮装行列やフォークダンス、修学旅行や大沼公園の遠足、クラブ活動、名物先生の授業等・・・思い出話が尽きず、あっという間に2時間半が経過しました。

最後に小生のリードで校歌・応援歌2を歌い、フレーフレー西高のエールで締めました。次回の再会を約束し、それぞれクラスごと二次会へと函館のネオン街に消えて行きました。（青木保）

×　×　×

他支部の活動

函館本部総会に参加して

会長　佐々木太郎

10月4日(金)18時から総会が五島軒本店で開催されました。今回の総会の出席者は265名、うち高女・女高出席者は30名ほど、また今年卒業したばかりの63回生も12名出席していました。

懇親会の前に、西高生のウエストヒルズプロジェクトから、現役吹奏楽局員20名で、ポピュラーを演奏し、演奏に合わせて書道とバトントワラーのパフォーマンスがありました。同窓会で現役高校生の出演は珍しく、面白い企画でした。

懇親会でのアトラクションは校長のサックス独奏と、抽選による景品配布でした。最後に校歌、応援歌斉唱、応援団の「フレー、フレー、西高」で21時過ぎにお開き。本部および西高では、2年後に迫った西高110周年の準備を進めているようです。

札幌支部総会の模様

事務局　野口卓史

10月19日(土)16時より京王プラザホテル札幌で、札幌支部総会・懇親会が、高女34回生から西高38回生まで37名出席して開催されました。また恩師の小原孝男先生、函館から本部毛利副会長も駆けつけてくださいました。

冒頭の総会議事の後懇親会へ。参加人数はピーク時よりだいぶ少ないとのことでしたが、アットホームな雰囲気で良かったです。途中アトラクションで津軽三味線の素晴らしい演奏もあり、秋の日の一時を、西高の昔に帰って楽しい時間を出席の皆様と過ごせました。

会場には西高書道部が書道パフォーマンスで書いた書も展示されていました。また同窓生の皆様と元気でお会いできることを祈っております。

他校同窓会との交流

ラ・サール学園同窓会東京支部懇親会出席報告

副会長　高橋順吉

6月22日(土)ロイヤルパークホテルで行われた同窓会は13時受付～19時までで、第一部・総会、第二部・講演・演奏・講和、第三部・懇親会という超長時間同窓会です。新谷名誉会長と私は第三部の懇親会(来賓以外は立食)に出席しました。

途中で「LASALLE ANIMO」と印字された「タオル」が登場し、「アニモ！」のシュプレヒコールがありました。内容は何となく理解出来てはいたものの、周りの勢いで私も「アニモ！」を連呼しました。最後の校歌・讃歌・学生歌の合唱では隣同士の人と肩を組み、全員が一つの輪になり大声で合唱しました。この時はさすが男子校との感触を得ました。

白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会に出席

会長　佐々木太郎

10月12日(土)13時からグランドアーク半蔵門で開催された函館中部高校の同窓会に、新谷名誉会長と出席してきました。

出席者は162名、最高齢者は昭和13年卒(94歳)から平成24年卒まで幅広く、幹事は第83期(昭和56年卒、西高31回生に相当)でした。着席は来賓と後期高齢者だけで、後は期ごとに小さなテーブルを囲んで立席スタイルでした。

アトラクションはマジックショーで、前列の来賓はよく見えましたが、後方立席の人たちが見えたかどうか。ちょうど2時間でお開きに。「親睦大会」と銘打つだけあって、いわゆる総会の議事のようなものはなく、和やかな雰囲気の会合でした。

函工同窓会関東支部総会・懇親会に参加して

副幹事長　佐藤雅英

10月12日（土）13時、日暮里の「ホテルラングウッド」で開催された函工同窓会関東支部の総会・懇親会に高橋副会長と出席した。宮下支

部長が欠席の中、本間事務局長が代行し、総会は滞りなく進んだ。懇親会では函工同窓会独特の卒業科別のテーブル毎に先輩後輩同席の記念撮影が始まった、この記念写真は宴終了前には全員に配られた。イベントでは25年卒の新人が4人参加し、彼らを中心としたイベントが行われ、他に初参加者会員の紹介・発言があり、応援歌にしても科毎にあり、16時少し前お開きになった。出席者は来賓10名を含んだ87名だった。

×　×　×

◆事務局活動報告

事務局長　斎藤勝美（13回生）

●学年幹事会の開催

今年度15回総会が行われ初めての学年幹事会が7月27日に開催されました。

会場の関係で各回生一名の召集でしたが全員で26名の参加を見ました。主な討議結果は次のとおりです。

1. 総会収支報告（別表）
2. 次回総会予定平成27年5月16日又は23日　椿山荘
3. 総会出席者7名以上の回生への二次会補助金を定例化
4. その他　詳細はホームページに掲載
5. 以上の議案は承認を得ました

第15回総会　収支決算表

収入		支出	
参加収入（211名）	2,110,000	**椿山荘への支払**	**1,843,500**
御祝儀	90,000	食事代・飲み物代	1,770,000
キャンセル料(7名分)	35,000	会場費	31,500
本会計より繰入	800,000	看板代	42,000
		イベント費用	**856,860**
		イベント演奏費	72,000
		功労者記念品	40,000
		同期会補助金	140,000
		お土産代	333,540
		会報作成費	226,170
		印刷代（案内状・返信葉書	45,150
		通信費・事務費他	**124,393**
		返信葉書郵便代	49,725
		会報送付代他	74,668
計	3,035,000	計	2,824,753
		残金（本会計へ繰入）	**210,247**
合計	3,035,000	合計	3,035,000

●事務局としての活動

◎会報作成・ホームページの充実

広報部中心での活動

◎事務局の若返りを図り積極的に若い回生の参加を促して行きたい

●支部役員

名誉会長　新谷義克（1）
顧問　小西弥生（高女38）、成田慶子（女高2）、郷内繁（4）、小嶋俊昭（10）、若林英毅（11）
会長　佐々木太郎（14）
副会長　堀内洋子（14）
　　高橋順吉（17）
学年幹事会幹事長　竹澤秀明（17）
　　副幹事長　佐藤雅英（18）
事務局　事務局長　斉藤勝美（13）
会計　西山和子（23）、小林多美（24）
会計監査　森加代子（13）
総務部長　三村寿雄（13）
　　総務　洞田雅子（14）、青木保（21）、野口卓史（27）
広報部長　若林郁雄（14）
　　広報　井田幸子（20）、土矢一如（31）、佐々木雅子（32）、山越准司（32）、長谷川好弘（32）
書記　高村亨（20）

会員の皆様にお願い

東京支部活動の充実のために年会費（2千円）納入に協力を

上の会計報告にもあるとおり、同窓会は総会・懇親会の会費と年会費で運営されています。同窓会活動を今後とも維持・活性化していくために、会員の皆さんのご支援を宜しくお願い申し上げます。

＊　＊　＊

同期会開催補助（年一回）のお知らせ

東京支部では、同期会の活性化を目的に昨年（2012年）より、会員が同期会を開催した場合に、開催報告をホームページに掲載することを条件に年一回五千円の補助をしております。既に二桁の回生がこれを利用しております。

補助を受けるには、申請書を提出する必要があります。補助の申請書は東京支部ホームページからダウンロードすることが出来ます。

〈編集後記〉

○第15回記念総会・懇親会も成功裏に終わり関係者の皆様ご苦労様でした。年2回の発行も2年目になり11号は15回総会・懇親会、二次会を中心に編集されました。どの写真を見てもまだまだ若々しく元気な姿に見入ってしまいました。

○事務局会議において、会報のカラー化と秋号も会費納入会員にはお届けしようとの会長の提案を受け、協議の結果実現しました。同期回生の連合体である同窓会の活性化の一助として、会報やホームページでの情報発信がその役割を担えればと思っております。同時に皆さんからの投稿がそれを支えております。

○歳を取ってからWordでの割付・編集は中々思うように行きませんでしたが、編集後記を書く段になって少々ほっとしています。

（若林郁雄　記　14回生）

個人の尊厳を大切に、その人らしさをいつまでも…
八王子　特別養護老人ホーム　偕楽園ホーム
岐阜　特別養護老人ホーム　瀬戸の里
函館　特別養護老人ホーム　戸井湖寿荘
岐阜　特別養護老人ホーム　みずなみ瀬戸の里
岐阜　特別養護老人ホーム　二ツ森ホーム
2008年、岐阜の「瀬戸の里」が優良民間福祉施設として天皇陛下より表彰されました。
医療法人社団新谷会　新谷医院　東京都府中市朝日町2-30　TEL.042-361-9419
医学博士 新谷義克（西高1回生）